

第85回計画推進評価部会・第17回計画策定専門部会（平成31年4月19日開催）における意見と対応

（該当ページ順）

No	委員	意見主旨	対応	頁
1	関委員	目次ページなどで神奈川の戦略が一覧できると分かりやすい。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※「策定に当たって」に追記	3
2	平田委員	PJ3「高齢者」について、訪問医療や訪問看護など、地域の体制が整っていない中で、在宅看取り率を指標にするのは早いのではないか。	ご意見については、参考とさせていただきます。	16
3	平田委員	障がい者の意思決定支援は重要なことだが、相談支援従事者による計画策定の数が増えれば意思決定支援が進むのか。そうであれば、分かりやすく説明する必要がある。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※PJ4「障がい児・者」に追記・修正	19
4	内田委員	PJ6「産業振興」のKPI「生活支援ロボットの商品化件数」は「5」が続き横ばいだが、取組みが進展しないのか。	(これまでは年平均3件であったものを、毎年度新たに5件という目標にしていることを4/19の部会で説明済み)	25
5	関委員	「マグカル」は一般的な言葉ではないので、「未病」のように、初出の箇所などで説明をする必要がある。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※PJ7「観光」に追記	27
6	朱委員	PJ7「観光」に国際会議の誘致について記載する必要がある。	第3期実施計(素案)に、既に記載しています。 ※PJ7「観光」(MICEの誘致)	27
7	朱委員	海外から受け入れる留学生への支援だけでなく、国際感覚を身につけ、海外で学んだ知識や経験を神奈川で生かせるよう、神奈川から海外へ出ていく学生・生徒への支援も必要である。	第3期実施計(素案)に、既に記載しています。 ※PJ14「学び・教育」、PJ19「多文化共生」、「神奈川の戦略」の「グローバル戦略の推進」	45 57 87

No	委員	意見主旨	対応	頁
8	平田委員	PJ19「多文化共生」の具体的な取組みBに、通訳支援や多言語支援センターの取組みについて記載があるが、言葉以外の支援も重要である。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※PJ19「多文化共生」に追記	57
9	平田委員	日本語学習支援については、ボランティアだけでなく、行政が責任をもって夜間にも行う必要がある。	ご意見については、参考とさせていただきます。	57
10	内田委員	多文化共生も含め、県だけで全て取り組むのは厳しいと思うが、かながわ国際交流財団でもしっかりと取り組んでいる。関係団体などの取組みも記載できないのか。	第3期実施計(素案)に、既に記載しています。 ※PJ19「多文化共生」の医療通訳や多言語支援センターなどの取組みは、県がかながわ国際交流財団等に委託して実施している事業です。 第3期実施計画(素案)の記述に関しては、この他にも、団体と県が協働連携しながら取り組んでいるものも含まれています。	57 (全体)
11	松行委員	プロジェクトは県の取組みだけを示すものとなっており、この「実施計画」だけで「めざす姿」がどのように実現されるのかわからない。県や地域社会の役割など、全体像を示せるとよい。	(PJ20「協働連携」、「計画推進のための行政運営」の「多様な担い手との連携」などにおいて、多様な主体と連携して取り組むことについて記載していることを4/19の部会で説明済み)	58 59 93
12	小池委員	SDGsとプロジェクトの関係について、右上のアイコンの示し方はわかりやすく良い。 県民や企業によるSDGsへの取組みを測る指標などがあるとよい。	第3期実施計(素案)に、既に記載しています。 ※PJ22「環境」のKPIとして、SDGsの取組みに関連し、「かながわプラゴミゼロ宣言に賛同した企業・団体・学校などの数」を設定していることを4/19の部会で説明済み	63
13	矢島委員	プロジェクト名が「高齢者」「障がい児・者」など対象が明確となったが、地域社会で様々な環境の人たちが相互理解していくことが重要でもあり、そういった観点を記載する必要がある。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※「神奈川の戦略」の「ともに生きる社会かながわの実現」に追記	80
14	平田委員	「津久井やまゆり園事件」という表現は適切なのか。	ご意見については、参考とさせていただきます。 (本県においては、事件発生後から「津久井やまゆり園事件」と表記しており、「ともに生きる社会かながわ憲章」のチラシの記載も、追悼式の名称にも「津久井やまゆり園事件」を使用しています。これまで遺族等から指摘は受けていませんが、ご意見については参考とさせていただきます。)	80

No	委員	意見主旨	対応	頁
15	岩田委員 内田委員	デジタル社会は、この4年間で大きく進む可能性があるのですが、一つの大きな枠組みで示す必要がある。また、「未来社会創造」の中で、AI社会に向けた県の取組みを記載する必要がある。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※「神奈川の戦略」の「未来社会創造」に追記 ※「計画推進のための行政運営」の「ICT・データの利活用」に追記	88 89 92
16	関委員	指標・KPIと分けたことは良いことだと思うが、指標・KPIを選定した理由などを示す必要がある。	第3期実施計(素案)に、既に記載しています。 ※「プロジェクトの指標・KPI」	97 ～ 120
17	小池委員	指標とKPIに分けたことは良いことだと思うが、意識調査ではなく、その意識のもとどのような行動を行っているのかを測る指標・KPIとすることも検討する必要がある。	ご意見については、参考とさせていただきます。	97 ～ 120
18	矢島委員	指標で満足度を設定しているものについて、10%台や20%台と低い目標が多い。「十分満たされている」「かなり満たされている」の差が分かりにくいことや、「概ね満足」に相当する選択肢がないことも原因ではないか。	ご意見については、参考とさせていただきます。	97 ～ 120
19	矢島委員	PJ12「男女共同参画」の指標「夫は外で働き・・・」は個人の価値観であり、そのことを目標とすることは違和感がある。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※「プロジェクトの指標とKPI」のPJ12「男女共同参画」に追記	109
20	内田委員	神奈川では、民間でもすでに数多くのベンチャー企業を支援していて、全国トップクラスである。このような現状について、県はもっとアピールする必要がある。	第3期実施計(素案)の記載を修正・追加しました。 ※「神奈川をとりまく状況」の「4 産業構造の転換と働き方の多様化」に追記	136
21	岩田委員	様々な施策を進めていくうえで、「コミュニティ」が重要である。	第3期実施計(素案)に、既に記載しています。 ※「めざすべき4年後の姿」、「神奈川の戦略」など	全体

No	委員	意見主旨	対応	頁
22	能登委員	全体を通じて「人生100歳時代 笑いにあふれたコミュニティ再 生」ということを重視しているの だと感じた。キャッチフレーズだ けが先行しないように、しっかり と「笑いにあふれるコミュニテ ィの実現」に向けて取り組んでい く必要がある。	ご意見については、参考とさせていただきます。	全体
23	関委員	「〇〇課調査」をホームページ で確認しようと思ったが見つかり なかつた。調査名を正しく記 載する必要がある。	第3期実施計(素案)の記載を修正しました。 ※各プロジェクトの記載を修正 (名称が明らかな統計調査等については、名称を 記載。アンケート調査のような正式な統計調査等 ではないものについては、「県〇〇課調べ」、「〇 〇省調べ」等と記載。)	全体